



2022年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年7月9日

上場会社名 株式会社カンセキ 上場取引所 東  
 コード番号 9903 URL <https://www.kanseki.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大田 垣 一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経理部長 (氏名) 村山 和弘 (TEL) 028-659-3112  
 四半期報告書提出予定日 2021年7月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第1四半期の連結業績(2021年3月1日~2021年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第1四半期	10,009	8.7	595	35.9	579	42.8	428	74.8
2021年2月期第1四半期	9,208	3.6	438	14.5	405	16.9	245	17.2

(注) 包括利益 2022年2月期第1四半期 467百万円(△2.0%) 2021年2月期第1四半期 476百万円(72.1%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2022年2月期第1四半期	61	66	60	83
2021年2月期第1四半期	35	24	34	81

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第1四半期	29,472		10,291		34.7	
2021年2月期	28,857		9,903		34.1	

(参考) 自己資本 2022年2月期第1四半期 10,222百万円 2021年2月期 9,826百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
2021年2月期	円	銭	円	銭	円	銭
2022年2月期	—	10.00	—	12.00	22.00	—
2022年2月期(予想)	—	12.00	—	12.00	24.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年2月期の連結業績予想(2021年3月1日~2022年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	21,800	6.6	1,800	13.5	1,750	14.5	1,080	14.5	155	71
通期	43,500	4.6	3,160	0.2	3,050	4.8	1,880	4.7	271	06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年2月期1Q	8,050,000株	2021年2月期	8,050,000株
② 期末自己株式数	2022年2月期1Q	1,100,351株	2021年2月期	1,114,251株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年2月期1Q	6,949,346株	2021年2月期1Q	6,957,536株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2021年3月1日から2021年5月31日まで)における我が国経済は、収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症拡大により、依然として混乱した情勢が続いております。ワクチン接種による打開策も始まっておりますが、新たな脅威となる変異ウイルスの出現もあり、期待される集団免疫を獲得するまでには相応の期間を要するとみられ、警戒の解けない経営環境の長期化が予想されます。

この様な中、当グループは、お客様・お取引先様・従業員の新型コロナウイルス感染防止の為、所管保健所・自治体等と連携を図りながら、必要な対策を進めてまいりました。引き続き、営業店では従業員のマスク着用の他、レジ清算列の間隔線や飛沫シールド設置等の他、営業時間の短縮を行いました。

営業面で、前年同四半期のゴールデンウィーク期間は緊急事態宣言による休業指定業種として、アウトドア事業及びリユース事業が指定された事により、該当事業の店舗が全店長期休店する事態となりましたが、当第1四半期は、一部の店舗で休店したものの、概ね通常通りの営業体制で臨む事が出来た事により、売上・利益面で大きく伸長いたしました。

ホームセンターでは、新型コロナウイルス感染対策としての各種衛生用品等の供給が安定している事から、全体的に前年同四半期の様な極端な購買需要は起こらないものの、当第1四半期もゴールデンウィーク期間を中心として、園芸・ガーデニング用品等を中心に安定した動きを見せております。

WILD-1事業では、当第1四半期もゴールデンウィークのアウトドア需要が高まる時期の4月下旬に、一部の都府県で緊急事態宣言が発令され、且つ東京都より休業要請指定業種とされた事から、感染拡大防止を最優先し、都内の2店舗を長期休店致しました。一方で、他の既存各店では通常営業体制が取れた事や、オンライン販売も順調に伸長したことから、前年同四半期を大きく上回る業績推移となりました。

専門店事業においては、オフハウス店舗の店頭買取りが不安定にある中、ゴールデンウィーク期間を休店せずに営業を続けられた事や、取り組みを強化しているオンライン販売も順調に伸びた事から、前年同四半期の業績を大きく上回っております。業務スーパー店舗では、引き続き飲食店の営業自粛や時短営業、イベントの中止等の影響を受け、業務需要が大幅に減少しておりますが、一般消費者のご利用増加傾向は続いており、業績は堅調に推移しております。

これらの結果、一部店舗で長期休店はあったものの、当第1四半期連結累計期間の売上高は100億9百万円(前年同四半期比8.7%増)、営業利益は5億95百万円(前年同四半期比35.9%増)、経常利益は5億79百万円(前年同四半期比42.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億28百万円(前年同四半期比74.8%増)となり、増収増益となりました。

なお、当グループの報告セグメント事業別業績は次の通りです。

#### [ホームセンター事業]

ホームセンター事業では、新型コロナウイルス感染防止対策の関連品の供給不足は解消され、安定してきている事から、商品カテゴリーによっては特需の発生した前年同四半期実績を割り込む場面が発生したものの、ゴールデンウィーク期間中では、園芸・ガーデニング用品やペット関連用品、エクステリア等の工事・サービス部門が安定伸長しております。前年3月に新規開店した「栃木そのべ店」も同様の傾向にあります。ほぼ計画通りの業績となっております。

これらの結果、ホームセンター事業の営業収益は、45億48百万円(前年同四半期比6.3%減)、セグメント利益は1億94百万円(前年同四半期比44.7%減)となりました。

#### [WILD-1事業]

WILD-1事業では、前年同四半期に緊急事態宣言による休業要請指定業種となった事から、ゴールデンウィークの需要期に全店休業致しましたが、当第1四半期は都内2店舗を除き、概ね通常営業出来たことから、大幅に業績回復を致しております。根強いアウトドアブームの流れは通年楽しめるレジャーとして認知され、主力のキャンプ関連用品をはじめ、フィッシング関連用品他も大きく伸長しております。ネットショップのオンライン販売についても、前年同四半期を上回るペースが続いております。前年3月に新規開店した「ランチ博多店」も既存店同様の傾向にあります。

これらの結果、WILD-1事業の営業収益は、31億72百万円（前年同四半期比57.5%増）、セグメント利益は3億94百万円（前年同四半期比268.0%増）となりました。

#### 〔専門店事業〕

専門店事業の内、業務スーパー店舗では、業務需要回復が遅れておりますが、一般消費者の利用増加が安定しており、業務需要の減少を上回る業況が続いております。当第1四半期は、前年同四半期の様な新型コロナ感染抑止政策に起因する特別な需要増加の発生はございませんが、SNSやメディアを通しての紹介も活発化し、認知度も更に高まって来た事で、一般のお客様のご利用増加と年齢層の広がりにつながっております。前年6月に新規開店した「業務スーパー小山ひととのや店」も既存店同様の傾向にあります。

オフハウス店舗では、WILD-1事業同様に前年同四半期はゴールデンウィークが上期の大きな需要期に休業要請対象業種となった事から、この期間を休店いたしました。当第1四半期は、通常営業体制に戻り、出張買取りも再開し、回復傾向にあります。また、フランチャイザーである株式会社ハードオフコーポレーションの主催するネットモールへの積極参加により、店頭販売以外での売り上げが大きく伸長しております。

これらの結果、専門店事業の営業収益は、23億87百万円（前年同四半期比2.2%減）、セグメント利益は1億92百万円（前年同四半期比6.2%増）となりました。

#### 〔店舗開発事業〕

店舗開発事業では、前年同四半期にアミューズメント施設が緊急事態宣言下での休業要請指定業種となった事で、需要期の長期休店や時間短縮営業をしておりましたが、当第1四半期は通常営業に戻りつつあり、収益も改善しております。また、賃貸物件の物件数も安定してきており、一定の利益水準を確保しております。

これらの結果、店舗開発事業の営業収益は、87百万円（前年同四半期比28.9%増）、セグメント利益は36百万円（前年同四半期比94.1%増）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、294億72百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億14百万円の増加となりました。主な要因としては、現金及び預金の減少3億54百万円の減少要因に対し、売掛金の増加69百万円、商品の増加7億5百万円、土地の増加35百万円、敷金及び保証金の増加38百万円の増加要因によるものであります。

負債は、191億80百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億26百万円の増加となりました。主な要因としては、未払法人税等の減少6億15百万円、長期借入金の減少3億20百万円の減少要因に対し、支払手形及び買掛金の増加4億86百万円、電子記録債務の増加2億57百万円、短期借入金の増加8億43百万円、賞与引当金の増加96百万円の増加要因によるものであります。

純資産は、102億91百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億88百万円の増加となりました。主な要因としては、配当金の支払83百万円の減少要因に対し、当第1四半期連結累計期間において親会社株主に帰属する四半期純利益4億28百万円を計上したことによるものであります。この結果、当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は34.7%となりました。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルスの感染拡大について、現時点で当社への影響額等を見通すことは困難なことから、2021年4月9日に公表いたしました2022年2月期の第2四半期（累計）及び通期の連結業績予想に変更はございません。

今後の事業動向を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

※ 上記予想は、現時点で入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る現時点における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,772,287	2,417,926
売掛金	708,567	777,775
商品	5,857,972	6,563,152
その他	292,660	379,176
貸倒引当金	△111	△103
流動資産合計	9,631,376	10,137,926
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,664,252	3,647,631
土地	11,067,882	11,103,422
その他(純額)	630,472	601,942
有形固定資産合計	15,362,607	15,352,996
無形固定資産		
投資その他の資産	550,472	545,613
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,677,168	1,715,628
その他	1,621,905	1,707,349
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	3,299,074	3,422,977
固定資産合計	19,212,154	19,321,587
繰延資産	14,443	13,251
資産合計	28,857,974	29,472,766
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,076,716	3,563,345
電子記録債務	1,116,713	1,374,587
短期借入金	189,635	1,033,336
1年内返済予定の長期借入金	2,126,320	2,068,247
1年内償還予定の社債	100,000	100,000
未払法人税等	851,077	235,585
賞与引当金	—	96,834
ポイント引当金	287,482	287,366
その他	1,177,310	793,937
流動負債合計	8,925,255	9,553,239
固定負債		
社債	900,000	850,000
長期借入金	7,813,683	7,493,069
役員退職慰労引当金	28,340	28,340
退職給付に係る負債	622,398	625,764
資産除去債務	197,829	198,098
長期預り敷金保証金	114,261	113,571
その他	352,462	318,877
固定負債合計	10,028,974	9,627,721
負債合計	18,954,229	19,180,961

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,926,000	1,926,000
資本剰余金	1,864,000	1,866,434
利益剰余金	5,850,775	6,196,064
自己株式	△730,216	△721,107
株主資本合計	8,910,559	9,267,391
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	918,402	957,104
退職給付に係る調整累計額	△2,198	△1,998
その他の包括利益累計額合計	916,204	955,105
新株予約権	76,980	69,307
純資産合計	9,903,744	10,291,805
負債純資産合計	28,857,974	29,472,766

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年5月31日)
売上高	9,208,852	10,009,072
売上原価	6,578,065	7,103,381
売上総利益	2,630,786	2,905,691
営業収入	176,404	193,630
営業総利益	2,807,191	3,099,321
販売費及び一般管理費	2,369,031	2,504,014
営業利益	438,160	595,307
営業外収益		
受取利息	97	90
受取配当金	1,164	2,236
受取保険金	68	464
補助金収入	7,116	11,981
その他	1,324	1,898
営業外収益合計	9,771	16,671
営業外費用		
支払利息	38,116	21,869
支払手数料	593	8,285
その他	3,543	2,455
営業外費用合計	42,253	32,609
経常利益	405,678	579,369
特別利益		
投資有価証券売却益	—	6,077
特別利益合計	—	6,077
特別損失		
固定資産除売却損	1,560	5,087
投資有価証券売却損	—	147
投資有価証券評価損	7,293	—
賃貸借契約解約損	738	—
特別損失合計	9,592	5,234
税金等調整前四半期純利益	396,085	580,211
法人税、住民税及び事業税	148,961	209,561
法人税等調整額	1,912	△57,867
法人税等合計	150,873	151,694
四半期純利益	245,211	428,517
親会社株主に帰属する四半期純利益	245,211	428,517



## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年5月31日)
四半期純利益	245,211	428,517
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	231,707	38,701
退職給付に係る調整額	△92	200
その他の包括利益合計	231,614	38,901
四半期包括利益	476,826	467,419
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	476,826	467,419

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間  
(自 2021年3月1日 至 2021年5月31日日)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2021年4月23日に3回目の緊急事態宣言が発令されたことにより、一部の店舗におきまして、やむを得ず休業または営業時間を短縮しておりますが、当社における影響は軽微なものとなりました。

当社においては、第1四半期以降の業績を勘案し、今後の業績において新型コロナウイルス感染症の影響が軽微なものとなるという仮定に基づき、繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損損失等に関する会計上の見積りを行っております。

なお、現時点で入手可能な情報に基づいて最善の見積を行っておりますが、今後の状況経過により影響が変化した場合には、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を与える可能性があります。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年5月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ホームセン ター	WILD-1	専門店	店舗開発	計				
営業収益									
外部顧客への営業収益	4,852,643	2,014,464	2,442,102	67,619	9,376,830	8,426	9,385,257	—	9,385,257
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	—	—	—	3,267	3,267	14,400	17,667	△17,667	—
計	4,852,643	2,014,464	2,442,102	70,886	9,380,097	22,826	9,402,924	△17,667	9,385,257
セグメント利益	352,252	107,299	181,478	18,867	659,898	7,571	667,469	△229,309	438,160

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△229,309千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△229,309千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年5月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ホームセン ター	WILD-1	専門店	店舗開発	計				
営業収益									
外部顧客への営業収益	4,548,744	3,172,033	2,387,960	87,148	10,195,885	6,816	10,202,702	—	10,202,702
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	—	—	—	3,267	3,267	14,400	17,667	△17,667	—
計	4,548,744	3,172,033	2,387,960	90,415	10,199,152	21,216	10,220,369	△17,667	10,202,702
セグメント利益	194,967	394,904	192,753	36,625	819,250	5,866	825,117	△229,809	595,307

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△229,809千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△229,809千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。